



第1図 遺跡位置図 (1/16000)

IV 駒林遺跡試掘調査(1)

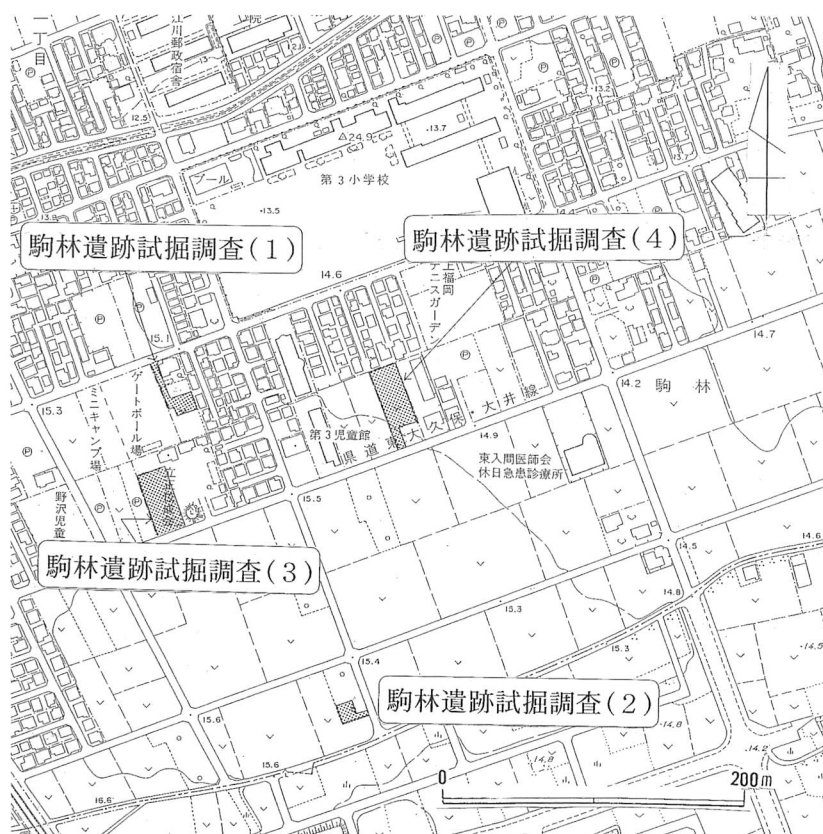
所在地	駒林字南原424-2の一部、 -20の一部、-23
原因	個人住宅の建設
調査面積	330.38㎡
調査期間	H11.4.9.
調査担当	柳沢健司
出土遺物	なし
遺構等	なし



駒林遺跡試掘調査(1)作業風景（北より）

駒林遺跡は、福岡江川の南側に広がっており、江川よりやや小高い場所に立地していると推察されてきた。しかし、実際のところ1986年の第1次調査、1995年、1997年実施の試掘調査によって時期不明の溝が計5条確認されているのみで、その性格については、決定的な決め手がない。

さて、今回調査をおこなったのは、溝が2条確認された1997年度試掘調査③区の南東450mで、標高15mを測る地点である。



現地形は平坦であるが、400～500m東方から西へ向かってゆるやかに2mほど高くなっている。4月9日、図示したように私道の砂利敷き部分の途切れる南端の土地境界杭を基準に南へ向かって1～11区、東へ向かってA～J区を設定し1区おきに表土除去作業を行った。概ね地表から30～40cmほどでローム面に達した。ローム面を精査したが遺構も遺物も確認されなかったので当日中に調査を終えて器材を撤収した。

第5図 駒林遺跡試掘調査区位置図（1／5000）

V 駒林遺跡試掘調査(2)

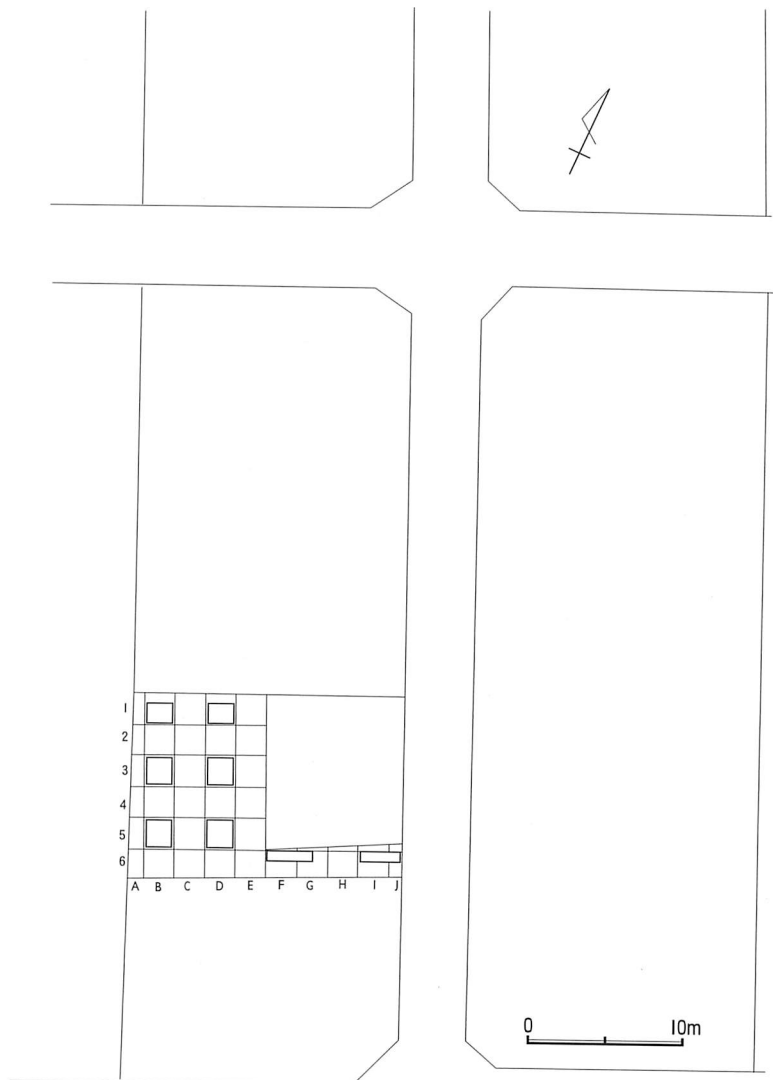
所在地 駒林字南原394-2
 原因 個人住宅の建設
 調査面積 125.91 m²
 調査期間 H11.5.25
 調査担当 柳沢健司
 出土遺物 瀬戸美濃産灰釉菊皿
 遺構等 なし



駒林遺跡試掘調査(2)作業風景(東より)

当調査区は、駒林遺跡でも西端に位置し、標高15mを超える小高い地点にあたる。50m南東には、富士見市稲荷久保北遺跡が広がっている。稲荷久保北遺跡では、近世の溝跡や遺物から戦国期と考えられる地下式坑が確認されている。

試掘調査は、5月25日、私道部分の付け根にあたる部分で2mグリッドを西端から東へ向かってA～J区、北端から南へ向かって1～6区と設定し、1区おきに表土除去作業を行った。地表面から概ね60cmほどでローム面に達した。遺構は確認されなかったが、B-5区より瀬戸美濃産灰釉菊皿の破片を1点確認した。当日中に埋め戻しも終了し、器材を撤収した。



第6図

駒林遺跡試掘調査(2)区全測図(1/500)